

#### 4. 各学類・研究科におけるFD活動

平成27年度

### 学類・研究科ごとの取組



# 人間発達文化学類

## 1. 学類

### ① FD 研修会

- (1) 教養演習 I ・基礎演習報告会(教育課程委員会)
- (2) 次年度教養演習・基礎演習担当者説明会(教育課程委員会)
- (3) 教養演習 II 報告・意見交換会(教育課程委員会)
- (4) 授業公開および検討会

#### 第 1 回

科目名：教育行政学

授業者：阿内春生 先生

日 時：7 月 6 日 (月) 4 時限 (14 : 40～16 : 10)

#### 第 4 回

科目名：理科学習指導論 C

授業者：平中宏典 先生

日 時：11 月 16 日 (月) 3 時限 (13 : 00～14 : 30)

### ② FD 調査

- (1) 「教養演習 I」「教養演習 II」「基礎演習」実施概要調べ(教育課程委員会)
- (2) クラスにおける学生指導に関する実態調査(前期)(教育課程委員会)
- (3) クラス・ゼミにおける学生指導に関する実態調査(後期)(教育課程委員会)
- (4) 学習ポートフォリオ等の使用状況調査(教育課程委員会)
- (5) 新入生入学動機アンケート調査(教育課程委員会、将来計画検討委員会)
- (6) 学習と生活に関するアンケート調査(全学類生対象)(教育課程委員会、将来計画検討委員会、学生生活委員会)

## 2. 研究科

- ① 研究発表状況等に関する調査(教育課程委員会)
- ② 学業の成果および修了研究についての調査(教育課程委員会)

## 行政政策学類

### 1. 学類

- ① 学類では少人数教育を重視する観点から、各演習担当教員を「アドバイザー教員」と位置づけて、適宜、学生からの相談や意見聴取に応じ、対策を立てるようにしている。
- ② 新入生に対しては、志望理由や将来の職業選択等に関するアンケート調査を学類として実施し、学生の意識や意向の把握に務めている。
- ③ 教養演習の一環として、新入生を対象として入学直後の4月に1泊2日の日程で「新入生ガイダンス」を行っている。事前に上級生（シニター）との打ち合わせ、事後に反省会を行い、学生の自主性を尊重した運営を重視している。
- ④ 3専攻に分かれる2年次に向け、1年次後期に、将来の職業選択も見据えた専攻選択に関する意識調査と要望集約を行っている。
- ⑤ FD公開授業およびアクティブラーニング実践の一環として、2年次法学専攻の専攻入門科目共通の企画である「法律討論会」を開催し、その成果を学類刊行物『嶺風』に掲載している。
- ⑥ 毎月1回、学友会役員と定例の会議を行い、カリキュラムや学習環境等をめぐる課題に関して意見交換を行っている。また、次年度の時間割編成や授業構成案についても学友会役員から意見聴取を行い、学生の意向を把握している。
- ⑦ 4年生の卒論提出時に合わせて「卒業時アンケート調査」を実施し、行政政策学類での学習・学生生活の実態把握を行っている。
- ⑧ 教養演習（学類）、専攻入門科目（学類）、専門演習（学類・現代教養）、基礎演習（現代教養）の担当教員にアンケートを実施し、ゼミの運営等につき、工夫した点、問題点、課題などに関して調査している。集計後、年度末の3月に懇談会を実施して意見交換を行い、得られた情報を学類所属教員にフィードバックし共有化を図っている。

### 2. 研究科

研究科では、①新入生および修了生に対するアンケート調査、②修了生との懇談会、③院生自治会が主体となって実施する修士論文の報告会の支援を行っている。

## 経済経営学類

教育の質を改善するための FD 活動は、教員各自の責任と努力で行う事を中心としつつ、学類教育がカリキュラムという授業体系の下で行われ、このカリキュラムが専門科目になればなるほど各専攻内部での日常的な点検と検討の下で実施されているという事から専攻と講座という組織を単位とした活動にならざるを得ず、学生の入学から卒業までを考える当然であるが、共通教育を含めた学類全体の活動になる。このように、個人と組織が相まった FD 活動が理想の姿であり、この活動が実を結ぶことが教育の質改善の絶対条件であろう。1 年間の FD 活動を振り返ることは、この様な教育そのものの 1 年間の流れの中で振り返る事となる。

### (1) 学生との教育契約書であるシラバスの作成と点検

前年度の 2 月を締め切りに当該年度のシラバスが作成され、新学期の授業登録までに全てのシラバスが作成されているかを教務委員が点検する。学類の授業科目については、100%登録されているが、大学院の授業科目とりわけ演習については、「受講生との相談」という記述にとどまるケースが散見されたが、この様な科目についても学類のシラバス同様な分量と質が必要である旨、教員会議などで意思統一し、こちらもほぼ 100%登録されている。ただ、シラバス作成時期と授業の期間に時間のずれがあり、この事が 15 回の授業内容の改善と変更に対する制約になるという意見もある。また、シラバスの中で自宅学習の充実を目指す欄があるが、この欄に記述があるとしても、学生の自宅学習を教員が点検し、授業の中身に反映するまでの授業を行っているかどうかは、教員任せになっている面もある。この点については、シラバスの成績評価基準の欄でこの自宅学習を評価に入れて実践している教員も存在している。

### (2) 15 回の授業

全学的な「教育改善のための学生アンケート」の中間アンケートが、中心になろうが、このアンケートに取り組んでいる教員は極めて少数である。学生から授業の感想文を集めたり、授業中にワークシートを配布し、授業に関係した作業をさせたり、学生の意見や質問を出しやすくする工夫も見られる。

### (3) 学期末の「教育改善のための学生アンケート」

全学共通のこの取り組みは、次年度に担当教員に結果が送付され、この結果を参考に各教員は自らの授業の振り返りを行う。ただ、学生の不満として、このアンケートが教員の授業改善に活かされていないという声も出ている。

#### (4) 学類独自のアンケート

学類の「自己評価報告書」は、学類化されて以降毎年刊行されている。この中に2年生向けと卒業生向けアンケートの詳細な結果とそれを受けた担当者の自己評価と専攻長による専攻全体の報告、大学院生の修了アンケートと修士論文中間報告会等に関する指導教員アンケートに基づいた大学院FDの報告も記載されている。この作業は、学類と研究科全体の教育の質を改善するために学類を挙げた取り組みとして内外から高く評価されている。2年生アンケートは、2年の前期までの教育について、卒業生アンケートは、入学から卒業までの教育についてのものである。後者には、「推薦したい授業科目と担当教員」という質問項目があり、教員の固有名詞が出るが、前者は主に第3セメスター(2年前期)までの学類が提供する専門の基礎教育(リテラシー科目)に関するもので担当教員の固有名詞は出ない。しかし、各年度でこの基礎教育を担当した教員は特定され、これらのアンケートを材料にして毎年年度末に専攻や講座単位で会議を開催し、大学院も含めたFD活動を行っているので、相対的にアンケートの結果が芳しくない科目担当教員にとっては、相当な精神的負担となっている。各専攻が提供している学類の専門教育の基礎的な科目(リテラシー科目)の担当は、特定の教員の担当とはせず、相互点検と相互評価を基礎とした集团的担当体制を構築することが、教員数の制約がますます強まるなかでは重要な課題となっているので、学生のアンケートを基にしたこのFD活動が単なる教員の個人批判になる事なく、教育の質改善の一助となるような評価に対する認識の改善も進めている。そのためにも基礎的な科目(リテラシー科目)は、それぞれの専攻に進む全学生を対象とした科目であり、セメスターごとに指定され、科目間の関連があるので、学生のアンケートの回答のレベルを上げるためには、各科目担当教員個人任せにするのではなく、科目間の授業の連携を高めて、総体としてのリテラシー科目群によって学生の理解度と満足度を高める工夫が求められ、その為に授業で配布した資料の回覧も進めている。

#### (5) 成績分布開示

成績開示は、ライブ・キャンパス(LC)上で行われている。このテーマについては、あまり議論にならず関心も見られない。しかしよく見ると各授業で成績分布は様々であり、相対的にA評価の割合が高い。とりわけ、学類のリテラシー科目群の中で成績分布の型が一様ではない。これは、担当教員の成績自体に対する認識のずれを反映している。教員がかつて体験した自身の成績評価がその基礎になっているものと思われる。GPA制度導入時にも全学的な討論集会が開かれ、成績分布問題、すなわち、成績を絶対評価にするのか相対評価にするのかというテーマである。本学では担当教員の責任に任せているが、学生からすれば一生ついて回る成績になる。そこで、成績分布に対する関心を高め、成績評価基準までFDの課題とする事が求められようが、この開示は、次学期に入ってからで、開示期間も定められ、関心を高めるためにはひと工夫必要となろう。

## 共生システム理工学類

### 1. 概要

共生システム理工学類では今年度、以下に示す3つの活動を行った。(i) 2015年度FD合宿への参加教員の選出、(ii) 修士課程生及び博士前期課程生を対象にしたFDアンケートの見直しと前期授業アンケートの実施、(iii) 授業公開を担当し検討会に参加する理工教員の選出。

### 2. 活動内容

- ① 当委員会は馬場一晴准教授をFD合宿への参加者として選出した。同准教授からの報告によれば『今回のFD合宿研修会は、福島大学のみならず、福島県内の様々な高等教育機関から学生と教員が参加して、「福島」という地域での教養教育について、議論を行った。福島の土地、気候、そして地域性について、グループに分かれてあらためて考え直し、福島をさらにより良く知り、そして福島のさらなる発展のために、これから高等教育機関でどのような教養教育を提供していくことが望ましいかについて考察を深めた。教員だけでなく、学生と共に合宿を行ったことで、双方の視点をお互いによく理解し合うことができた。FD合宿研修で学ばせて頂いたことを積極的に活かして、今後の福島大学での教養教育に精進させて頂きたい』との報告を受けた。
- ② 理工ではこれまで中馬教允元教授（理工学類研究プロジェクト型実践教育推進センター）が中心となり、毎年、前・後期の修士課程生及び博士前期課程生を対象にした2種類のFDアンケート（授業科目と修士論文に関するもの）を実施してきた。昨年の後期授業開始後、学類長から指示を受け、まずFD委員会でアンケートの見直しについて検討した。その結果、アンケート内容は変更しないが、アンケート様式の一部を変更し、実施期間を約1ヶ月に延ばした。2016年1月末時点で回収率は7割程度で、回収は完了していない。アンケートの分析には一定の時間を要するため、次年度の報告書でその分析結果を提示したいと考えている。なお、2015年度の後期授業アンケートも実施する予定である。
- ③ 授業公開担当者として大橋弘範准教授を選出した。授業科目は「化学Ⅱ（物理化学）B」で、昨年12月15日（火）1限にL2教室にて実施された。ビデオや資料、黒板も全面を使用し、切れのある授業を展開された。学生からも質問が出され、活気に満ちていたような印象を受けた。授業終了後、すぐに副学長室で検討会が行われた。各学類のFD委員から、授業の組み立て方に関する質問や意見が出され、特に、シュレディンガー方程式の教え方や基礎知識としての偏微分に関して活発な議論が行われた。

## 5. 夜間主（現代教養）コースにおけるFD活動

平成27年度

### 夜間主（現代教養）コースの取組



# 演習科目改善のためのアンケート

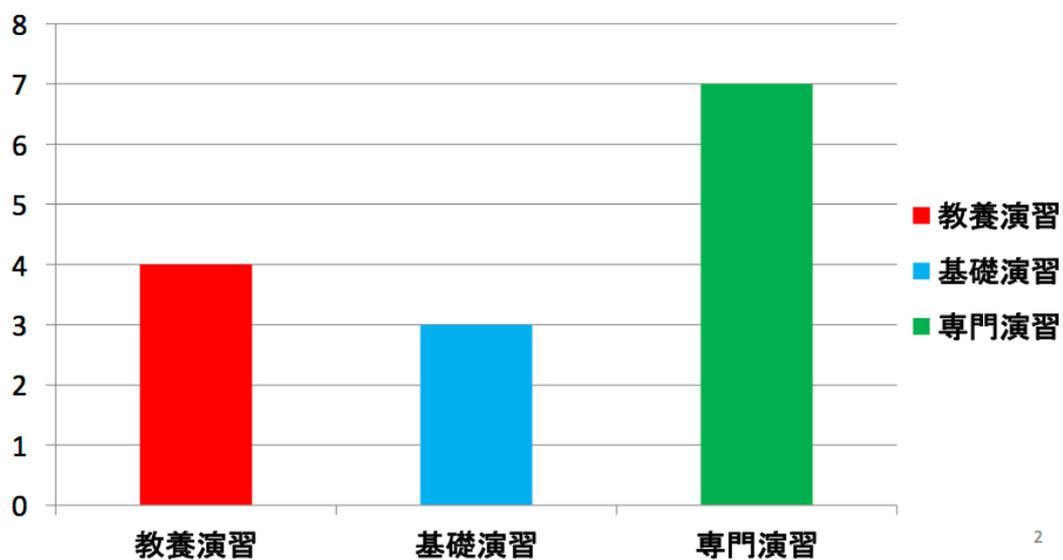
## 「演習科目の改善のためのアンケート」

平成28年 2月 29日  
現代教養コース教育指導担当者会議

1

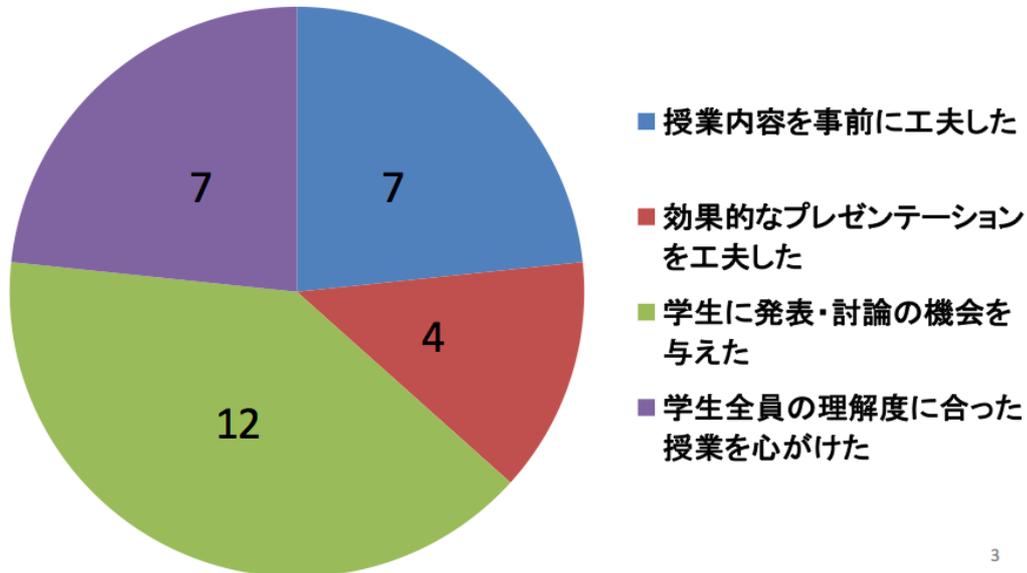
演習科目の改善のためのアンケート

### ・担当された科目名 (教養演習・基礎演習・専門演習)



2

## 1, 学習指導面で工夫したことは何ですか？



3

## 1, 学習指導面で工夫したことは何ですか？ (1)

- ・通常のテキストの輪読に加え、「株式運用ゲーム」を行うことで、現実の経済に対する興味を引き出した。(基礎)
- ・4年生は卒業論文で時間の余裕がなく、3年生は1人しかいないという状況の中で、後期は私が小講義(議論の提起)を行い、議論をする方式で進めた。(専門)
- ・情報収集の方法(資料の探し方、集め方)や読み方などを丁寧に伝えた。興味分野の参考文献をまとめて紹介し、ゼミの皆で共有した。昼間のゼミ活動にも無理のない範囲で参加するようにお願いし、参加させた。(専門)
- ・前期はグループワークとディスカッション、後期はプレゼンを中心にゼミを進めました。(教養)
- ・卒論生がひとり付いただけだったので、特に現代教養コース生だからといって工夫や配慮したことはありませんでした。(専門)
- ・4年次に卒業研究にかけられる時間が昼間の学生よりも少ないことを見通して、3年後期のはじめから、各々の関心事を探って翌年の卒業研究につながるような報告内容について助言した。(専門)

4

## 1, 学習指導面で工夫したことは何ですか？(2)

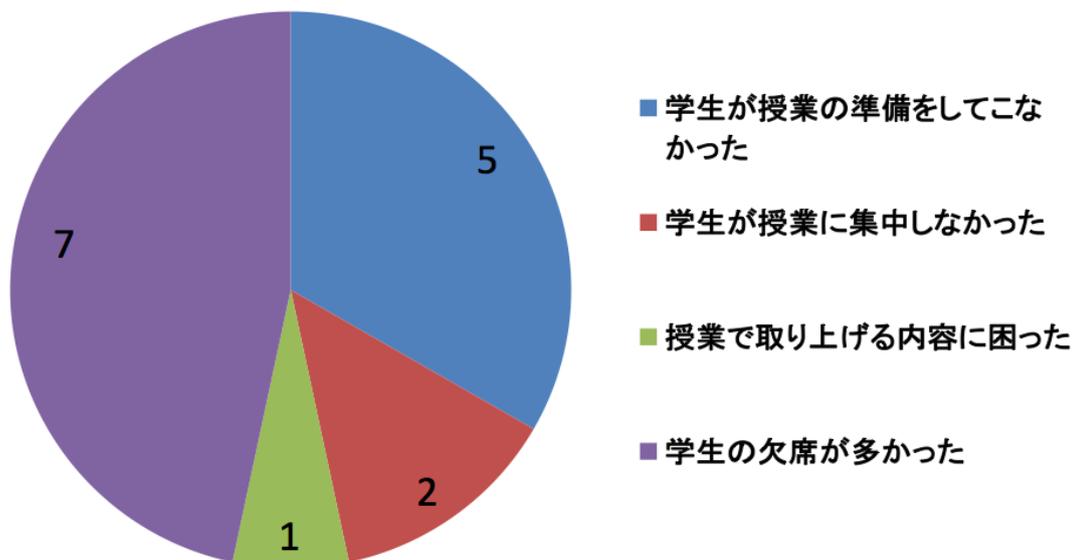
・職業と年齢差が大きいので、共通の関心分野を把握し、授業内容に反映するのに時間がかかった。(教養)

・総務担当の副学類長に、現代教養コースの演習を、しかも30人というクラスを担当させることは無茶です。学生対応はほとんどメールですしか時間がありませんでした。卒研の指導や進路の相談などに時間がとれず、不本意な教育活動でした。演習では4～6月にグループ発表形式を実施しましたが、欠席者が入れ替わり、発表内容が全員の理解になりません。(専門)

・事前の予測をはるかに越えて、生徒の音楽に関する知識がなかったので、シラバスを柔軟に変更して実技や模範演奏なども要望に応じて取り入れた。(基礎)

5

## 2, 学習指導面で苦労したことは何ですか？



6

## 2. 学習指導面で苦勞したことは何ですか？(1)

・今年度は特に仕事の関係で欠席する学生が多く、学生全体の雰囲気作りに気を使った。「仕事のため欠席」への対応は各教員のスタンスによって異なると思われるが議論を詰める必要がある問題であろう。(基礎)

・社会人は安心して見ていられたが、若い学生は就職に壁に突き当たって学習(卒論)に集中できない様子が目立った。(専門)

・昼の学生の卒論はこれまでの専門科目の積み重ねもあるので、指導しやすいが、現代教養コースの卒論の指導は積み重ねがない分むずかしい。(専門)

・アルバイトで生計を立てている学生が数名いて、アルバイト先の事情で急にシフトが変更になり、演習を欠席することが何回もあった。(基礎)

・多数回、欠席する1, 2名学生がいた。仕事を理由にさぼり気味の者がいた。学生の意欲にバラつきがあった。(基礎)

・何人かの議論に入るのが苦手な学生に話す機会を与えることに苦勞しました。(教養)

7

## 2. 学習指導面で苦勞したことは何ですか？(2)

・昼間の学生では当然身についているであろう(あるいは学生同士で話題になって知っているであろう)知識(学習内容に限らず、ワープロソフトの使用法まで)がまるで未習熟な人が数名いた点に指導の難しさを感じ、特に卒研指導に大きな影響があった。(専門)

・遅刻は3分の1、欠席者は5分の1程度でしたがアルバイトや就職活動優先の生活です。出席しても発表者にならないとスマホを見て時間をつぶしています。(専門)

・音楽に限らず、生徒たちの知識が少なかったため、こんなことまで、と思われることについても丁寧に解説しながら授業を運営し、興味を失わせないように努めたが分からないことが余りにも意外だったので、内容の構成に骨が折れた。(基礎)

8

### 3, 学習指導面に関して、どのような課題がありますか？(1)

・「学力」といった垂直的な差もそうだが、各学生の「興味の方角性」といった水平的な差についても、今回多く見受けられた。特に後者については、選択可能な演習数の少なさが問題の根底にあると思われる。(基礎)

・社会人と若い学生とで現実を見る目、問題意識といった面で大きな差がある。その差をむしろ利用して議論を組織する工夫を行ったが、あまり効果があったとはいえない。(専門)

・働きながら学ぶ、という選択をしてきているので、学生のやる気に教員としても刺激を受ける部分が多くある。一方で、4年間の積み上げで学ぶ専門知識や技術の習得に関しては、かなりの制限があり、卒業論文としてまとめる時には、教員がフォローしなければならない部分が多く、昼夜のゼミ生それぞれへの個別指導には、労力がかなりかかるので工夫が必要であった。(専門)

・言い方は悪いかもかもしれないが、社会人学生がカルチャーセンター的に授業を履修し、そのまま卒論指導するとなると、自分で考える癖がつかないので、指導がやや困難。(専門)

・ほとんどの学生が学習については意欲的で、むしろこちらが敬服するような場合もあった。(基礎)

9

### 3, 学習指導面に関して、どのような課題がありますか？(2)

・報告の分担を事前に決めても、担当の授業時間の数時間前に欠席連絡を入れる学生がいるなど通常のゼミ形式を維持することが困難。参加型の授業にするために、事前に分担を決め話題提供の準備を求め、授業内容にマッチしない新聞記事のコピーを持参するなどテキストを読んできていないと思われる。一部の学生については、学習指導が成り立たない。他の学生の学習機会を阻害することになる。(教養)

・学力レベルにも、意欲にもバラつきがある。また、仕事の負担をどこまで考慮するか、悩ましい。(基礎)

・一学年時と二年次以降のつながりがうまくできるか多少の不安があります。文化教養モデル志望ではない学生もかなりいるようです。このゼミから専門科目、卒論につながっていくのか若干疑問です。(教養)

・個々人のレポートの書き方をチェックする機会が、昼の学生に比べて少ない。そのため、3年次後期から卒論ゼミで昼の学生と一緒に課題を提出する際に、はじめ、戸惑いや劣等感を持つこともあり、昼の学生とは別に、事前に確認をお願いすることになっている。(専門)

・昨年度は5名も卒論ゼミに来たので大変でした。ある特定の教員にゼミ生が集中してしまわないようにしてほしいし、来た学生を門前払いすることはやめてほしい。(専門)

10

### 3, 学習指導面に関して、どのような課題がありますか？(3)

・ゼミナール活動に積極的でない人でも、仕事の関係からゼミ以外での個別相談などの時間を取ることが難しいことは、ひとつ課題に感じた。(専門)

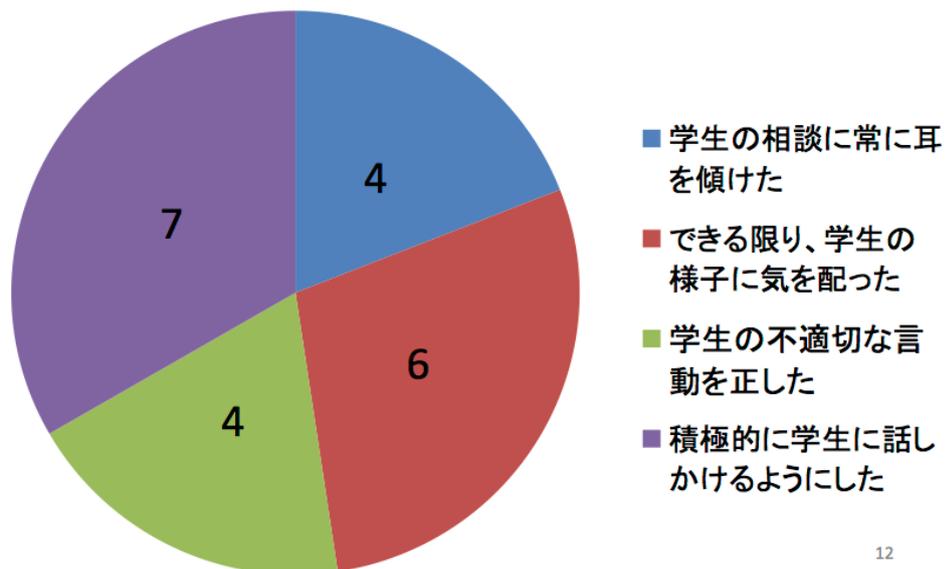
・コース選択に関するガイダンスを充実させてほしい。(教養)

・教員に時間がなかった。4年生は、卒研のテーマ設定ができない、しぼれないまま年末を迎えてしまう学生が2～3名いた。(専門)

・内容をもっとシンプルにすべきだった。私の場合、あまり学究的なことを提示するのではなく、よくあるカルチャーセンターの講座のように、例えばただオペラを見せて、簡単に説明するといった授業のほうが親切だったのかもしれない。(基礎)

11

### 1, 学生生活上の指導で工夫したことは何ですか？



12